

北見工業大学学報

第 258 号 (2013 年 7 月号)

目 次

入 試	平成 26 年度入学者選抜要項の公表……………	3
	平成 26 年度編入学試験の実施……………	5
研 究 助 成	平成 25 年度共同研究の受入状況……………	6
	平成 25 年度受託研究の受入状況……………	7
	平成 25 年度奨学寄附金受入状況……………	7
人 事	人事異動……………	8
受 賞	橋本泰成准教授の研究が世界トップ 10 の一つに選ばれる……………	9
諸 報	平成 24 年度教育優秀者表彰式を実施……………	10
	CAD/CAM 体験ワークショップを実施……………	11
	東北地方進学相談会を実施……………	12
	ハラスメント防止研修を実施……………	13
	「研究室公開」を実施……………	14
	父母懇談会(春季・北見)を開催……………	15
	ブックリユース「本、さしあげます。」を開催……………	16
	「学生選書ツアー」を実施……………	17
	北苑寮消防訓練を実施……………	18
	テクノトランスファーinかわさき 2013 へ出展……………	19
	北見工業大学技術セミナー(CPD プログラム認定講座)の開催……………	20
	第 60 回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加……………	21
	北海道 12 国公立大学進学コンソーシアム 2013 in 旭川に参加……………	22
	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2013 で研究の成果を広報……………	23
	平成 25 年度北海道地区国立大学法人等総務担当部課長会議を開催……………	24
	オープンキャンパスを開催……………	25

	地域市町村の活動に本学学生が積極的に参加・貢献……………	26
情 報 公 開	国立大学法人北見工業大学の役員報酬・給与について……………	28
学 内 日 誌	6月・7月……………	39

= 入試 =

平成 26 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 26 年度入学者選抜要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

○入学定員（募集人員）

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入試
機械・社会環境系	機械工学科	160 人	64 人	56 人	40 人
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	140 人	63 人	42 人	35 人
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	110 人	46 人	36 人	28 人
	マテリアル工学科				
工学部合計		410 人	173 人	134 人	103 人

※ 入学後1年間は各系に所属し、2年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。

② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○選抜方法等

一般入試

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個別学力検査の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成26年1月27日(月)～平成26年2月5日(水)	
試験日	個別試験は課さない	平成 26 年 3 月 12 日(水)
合格発表	平成26年3月6日(木)	平成 26 年 3 月 20 日(木)

推薦入試

選抜方法	学校長より推薦された者について、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 25 年 11 月 1 日（金）～ 平成 25 年 11 月 8 日（金）
出願要件	<p>高等学校又は中等教育学校を平成26年3月卒業見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ志望する系への能力・適性等について学校長が責任を持って推薦できるもの</p> <p>① 高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者</p> <p>② 志望する系の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者</p>
選抜期日	平成 25 年 11 月 29 日（金）
合格発表	平成 25 年 12 月 11 日（水）

帰国子女特別入試

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 25 年 11 月 1 日（金）～ 平成 25 年 11 月 8 日（金）
出願要件	略
選抜期日	平成 25 年 11 月 29 日（金）
合格発表	平成 25 年 12 月 11 日（水）

平成 26 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 26 年度編入学試験（推薦入試、学力試験入試）が実施され、各学科別の合格者数等は下表のとおりとなりました。

なお、編入学試験（社会人特別入試）については志願者がいなかったため、実施されませんでした。

学科名	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	10	1	1	1	若干人	4	3	1
社会環境工学科		1	1	1		0	0	0
電気電子工学科		0	0	0		1	0	0
情報システム工学科		0	0	0		0	0	0
バイオ環境化学科		0	0	0		1	1	0
マテリアル工学科		0	0	0		0	0	0
合 計		2	2	2		6	4	1

= 研究助成 =

平成25年度共同研究の受入状況

平成25年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
応用研究 推進センター	特任教授	山岸 喬	常呂産ニンニクおよび常呂産ニンニク製品の有用性に関する研究	日本製薬工業株式会社
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	PVG Solutions 株式会社/ 株式会社K I T A B A
電気電子工学科	教授	田村 淳二	電力系統一機器連成解析技術に関する研究	株式会社日立製作所 日立研究所
電気電子工学科	教授	田村 淳二	新エネルギーシステム変動抑制技術の検討/系統連系インバータのモデル化検討	株式会社日立製作所 日立研究所/ 株式会社日立産機システム
社会環境工学科	教授	中山 恵介	北見市環境調査研究 (大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	北見市
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	循環資源等の革新的ガス化技術に関する研究	JFEスチール株式会社
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	水酸化鉄の付着による裏面排水材の性能低下が及ぼす構造影響の研究	日特建設株式会社
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁維持管理におけるスマートセンサーの利活用に関する研究	株式会社豊水設計
マテリアル工学科	准教授	宇都 正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	ホクレン包材株式会社
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	下水汚泥の堆肥化に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
社会環境工学科	教授	川村 彰	簡易 I R I 測定装置を利用した路面の局部損傷箇所の抽出及び補修延長の検討	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	IDMA送受信機の試作と実証実験	株式会社KDDI 研究所
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	低温バリア絶縁膜に関する研究	株式会社富士通研究所
社会連携 推進センター	センター長	川村 彰	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所

平成25年度受託研究の受入状況

平成25年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	地盤材料の浸透特性の増減に及ぼす地震動による応力・ひずみ履歴の影響解明	公益財団法人鉄道総合技術研究所	500,000
機械工学科	教授	大橋 鉄也	ヘテロナノ構造およびその集合体に生ずる変形挙動のメソスケール結晶塑性解析	独立行政法人科学技術振興機構	10,790,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	生物多様性を確保するための最適横断面形状と水量に関する研究	国立大学法人北海道大学	1,000,000
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	「平成25年度 IARC-JAXA情報システム(IJIS)及び衛星データ等を利用した北極圏第4期研究海水分野」のうち海水厚(厚氷域)アルゴリズムの開発・改良と現場海水厚観測	国立大学法人東京海洋大学	2,000,000
応用研究推進センター	特任教授	山岸 喬	ケルセチン・インフラボンの生活習慣病予防機能の科学的エビデンス強化と高含有農作物の作出	京都府立大学法人京都府立医科大学	2,500,000

平成25年度累計11件

平成25年度奨学寄附金受入状況

平成25年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
社会環境工学科	教授	中山 恵介	工学研究のため	株式会社豊水設計	100,000
社会連携推進センター	携推進セン	川村 彰	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	1,350,000
機器分析センター	准教授	大津 直史	「寒冷地環境下に暴露される鋼材の腐食挙動解析」に関する研究助成	一般社団法人日本鉄鋼協会	2,000,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
社会環境工学科	教授	亀田 貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社清月	17,874
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	リチウムイオン電池の負極材ナノシリコンの製造技術に関する共同開発研究	株式会社ワイドテクノ	1,000,000
電気電子工学科	准教授	川村 武	研究目的	株式会社システムブレイン	3,500,000
電気電子工学科	教授	平山 浩一	マイクロ波帯回路技術の研究	株式会社関東電子応用開発	300,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	融雪火山を起因とした災害の防止並びに軽減に関する研究助成	日本工営株式会社	444,444
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	試験費用(寒冷地向けセメントの開発)	日油技研工業株式会社	1,500,000
機械工学科	准教授	林田 和宏	「海洋の環境保全に関連する研究～船用燃料油由来の炭素質PMの酸化反応性に関する研究～」(研究期間2年)に対する研究助成	造船学術研究推進機構	700,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	研究のため	一般財団法人 北海道河川財団	1,000,000
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	「低温合成を目指したLaAlO ₃ 前駆体溶液設計とコア材料へのナノコーティング技術の開発」に関する研究助成	公益財団法人 日揮・実吉奨学会	2,000,000
機械工学科	教授	柴野 純一	研究助成金	社会医療法人抱生会 丸の内病院	500,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河道管理の研究のため	株式会社 福田水文センター	500,000
	学長	鮎田 耕一	奨学研究費	太平洋セメント株式会社	300,000

平成25年度累計32件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
25. 6. 30	財務課係長	佐々木 徹也	辞職（北海道大学へ転出）
25. 7. 1	入試課長（係長兼務）	斉藤 仁史	入試課長
〃	情報図書課長（係長兼務）	岸本 一志	情報図書課長
〃	財務課副課長	久田 貢	企画広報課副課長（係長兼務）
〃	企画広報課副課長（係長兼務）	齊藤 敏浩	財務課副課長
〃	企画広報課副課長（係長兼務）	藤田 美代子	学生支援課副課長
〃	学生支援課副課長	渡部 孝弘	入試課副課長（係長兼務）
〃	情報図書課係長	斉藤 靖子	企画広報課係長
〃	北海道大学財務部調達課係長	脇坂 和典	財務課係長
〃	財務課専門職員	尾河 康典	財務課係長
〃	財務課係長	森本 典宏	財務課専門職員
〃	総務課専門職員	高橋 亜喜子	学生支援課係長
〃	学生支援課係長	川島 恵也	入試課係長
〃	入試課係長	上野 智子	情報図書課係長
〃	研究協力課専門職員	船木 敦子	情報図書課係長
〃	財務課事務職員	笠川 勇将	総務課事務職員
〃	総務課事務職員	奥村 由理香	財務課事務職員
〃	入試課事務職員	牧野 華子	財務課事務職員
〃	財務課事務職員	上野 祐輔	研究協力課事務職員
25. 8. 1	学生支援課事務職員	根本 綾子	総務課事務職員
〃	（新規採用）	源藤 拓也	学生支援課事務職員

= 受賞 =

橋本泰成准教授の研究が世界トップ10の一つに選ばれる

(電気電子工学科)

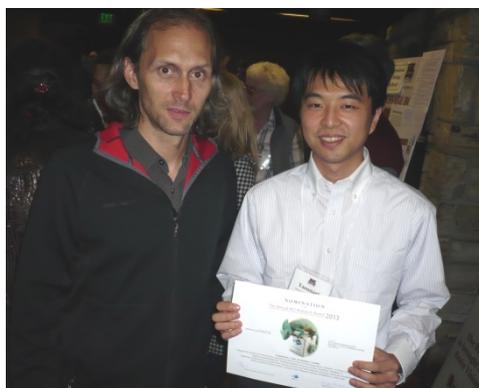
電気電子工学科橋本泰成准教授が旭川医科大学附属病院リハビリテーション科大田哲生教授と慶應義塾大学理工学部牛場潤一准教授のグループと行った共同研究で生まれた脳と機械をつなぐ技術(BCI/BMI)の研究 “Motor recovery of chronic writer’s cramp by brain-computer interface rehabilitation: A pilot study” が世界169のトップレベルの研究の中から International Annual Brain-Computer Interface Award 2013(Guger Technologies

社主催)のベスト10の一つとして国内から唯一選ばれ、6月6日(木)にカリフォルニア州アシロマでの授賞式で表彰されました。

これは、ブレインコンピュータインターフェース(BCI)の研究分野において革新的、卓越した研究成果に対して授与されるもので、毎年、世界トップレベルのBCI研究者が審査員となり、応募プロジェクトから優秀な業績に賞を授与するとのことで、本学にとってビッグニュースであり、大変うれしい知らせとなりました。



賞状のコピー



記念写真 (Guger Technologies 社 CEO、グーガー氏と)

平成24年度教育優秀者表彰式を実施

(学生支援課)

6月10日(月)、平成24年度教育優秀者表彰式を実施しました。

「ベストティーチング賞」は平成13年に創設されたもので、今回は平成24年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導等が顕著であるとされた教員9人(各学科8人、共通講座1人)

が受賞し、このうち4度目の受賞が1人、2度目の受賞が2人となりました。

表彰式では、鮎田耕一学長から一人ひとりに盾が授与された後、受賞者に対しお祝いの言葉がありました。

受賞された方々は、以下のとおりです。

「ベストティーチング賞」(敬称略)

機械工学科	教授	鈴木	聡一郎
社会環境工学科	准教授	川口	貴之
電気電子工学科	准教授	橋本	泰成
	准教授	高橋	理音
情報システム工学科	講師	後藤	文太郎
バイオ環境化学科	准教授	菅野	亨
マテリアル工学科	教授	平賀	啓二郎
	教授	鞘師	守
共通講座	准教授	春木	有亮



学長を中央に平成24年度教育優秀者表彰の各受賞者

CAD/CAM 体験ワークショップを実施

(機械工学科)

6月11日(火)に機械工学科のCAD室でCAD/CAM 体験ワークショップを実施しました。

機械工学科からウラ シャリフ准教授、株式会社ジェービーエム関東支社から川野 邊学氏と中村信吾氏がワークショップを担当しました。機械工学科の鈴木聡一郎教授の挨拶の後に、ワークショップが以下のよう
に実施されました：

10:30-12:00 午前Mastercam™概要説明、

Mastercam™実機でのデモンストレーション

13:30-16:30 午後Mastercam™体験版を使って2・3次元加工パス作成の体験

機械工学科および機械工学専攻合わせて16名の学生がワークショップに参加しました。参加者には二人の留学生もいました。そして、参加者全員に参加証明書が授与されました。



参加者の様子



CAD/CAM 体験の様子

東北地方進学相談会を実施

(入 試 課)

平成25年度北見工業大学進学相談会を6月15日(土)(八戸)、16日(日)(盛岡)で実施し、合わせて199人が参加しました。当日は田牧純一副学長からの挨拶の後、本学

の概要等を説明し、学科ごとの個別相談会、高校教諭向けの説明会、模擬授業等を行いました。



田牧理事の挨拶 (盛岡)



全体説明 (盛岡)



高校教諭向け説明会 (八戸)



模擬授業 (八戸)



個別相談 (八戸)



個別相談 (盛岡)

ハラスメント防止研修を実施

(総務課)

6月18日(火)、教職員のハラスメントに対する知識を深め、ハラスメント防止に努めることを目的として、ハラスメント防止研修が行われ、教職員約70人が参加しました。

外部講師から、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメント、セクシュア

ル・ハラスメントの事例紹介を中心に、経験談も交えた講義が行われ、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、ハラスメント防止に対する認識を新たなものにしていました。



受講時の様子

「研究室公開」を実施

(企画広報課)

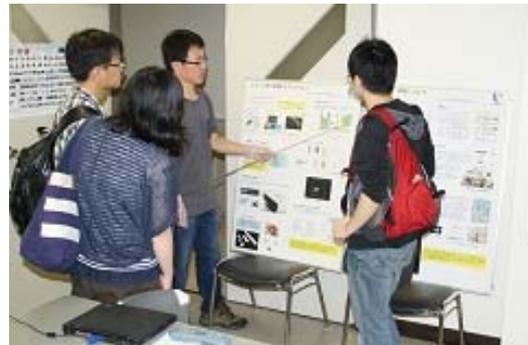
6月22日(土)～23日(日)に開催された第51回大学祭において、「研究室公開」を実施しました。普段、学外の方が目にする機会の少ない本学の研究内容を、やさしく楽しく紹介し、2日間で小さなお子様からご年配の方まで、8つのテーマに延べ1,348人というたくさんの方が来場してくださいました。

大学で行われている研究の一部に触れるという貴重な体験に、皆さん大満足の様子でした。

公開した研究室のテーマ
今年だって QVIC で超立体視
なぜ地震で建物は揺れるの？ ＝構造物の振動と耐震対策＝
電力システムのシミュレーションとアニメーション
光学ワンダーランド
シイタケ等のキノコが作る酵素で色を変える
ピカッと輝く有機 EL ディスプレイ
ロボコンのデモンストレーションおよび操縦体験
クリーンなエネルギーを学んで、化学で遊ぼう！！



光学ワンダーランド



ピカッと輝く有機ELディスプレイ



ロボコンのデモンストレーションおよび操縦体験



クリーンなエネルギーを学んで、化学で遊ぼう！！

父母懇談会（春季・北見）を開催

（学生支援課）

「父母懇談会（春季）」を、6月22日（土）に講堂を説明会場として、全学生の父母を対象に実施しました。

当日は、全国から170組220人の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、鮎田耕一学長から挨拶があった後、近藤和雄学生後援会会長からは、後援会の活動状況が報告されました。田牧純一副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がされるなど、様々な情報が父母に提供

されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。

毎年恒例となっている大学祭に併せた開催のため、参加した父母は、研究室公開など他のイベントも見学するなど好評を博しました。



全体説明会の様子

ブックリユース「本、さしあげます。」を開催

(情報図書課)

6月22日(土)・23日(日)の2日間、昨年の大好評により大学祭に合わせた、第2回目“ブックリユース「本、さしあげます。」”を開催しました。これは、図書館で不用になった本と学内の教職員・学生が読み終えた本をリユース(再利用)する企画です。平成24年度に重複等で不用になった本を本学教職員・学生および全国の国公立大学図書館等は無償譲渡した後、地域の皆様をはじめ少しでも多くの方に手に取っていただ

き、学習や研究に役立ててもらおうと、およそ1,500冊の不用本他、教職員・学生が読み終えた本、保存期間が切れた雑誌を準備したところ、たくさんの来場者があり、その中で176人、903冊の本・雑誌が譲渡されました。また、多くの方から、「工学の専門書を無料で貰えてうれしい。」との声もあり、来年以降もまた開催し、多くの皆様に喜んで貰える企画にできればと思っています。



来場者が選書する様子

「学生選書ツアー」を実施

(情報図書課)

図書館では、昨年に引き続き、7月4日(木)、「学生選書ツアー」を実施しました。

事前にポスター等により参加学生を公募し、学部学生及び大学院生が10人ほど参加しました。

大学近くの大型書店で1時間程度の選書を行い、学生たちは、趣味や資格、一般図書等、各々興味のある図書を手にして満足げでした。

選書後、その本を選んだ理由についてカ

ードに記入してもらい、後日、館内に展示し、図書館利用者へ紹介する等、図書館と学生との連携による有意義な活動となりました。

今後も学生との協働により、図書館の新しい活用等についてアイデアを出し合い、学習支援や利用サービスの向上に反映させたいと考えています。

なお、10月に第2回目の学生選書ツアーの実施を予定しています。



書店で選書する学生



館内の展示コーナー

北苑寮消防訓練を実施

(施設課)

7月7日(日)に北苑寮消防訓練を実施しました。寮内の熱感知器を発報させるところから避難訓練を始め、寮生で組織された各自衛消防隊は、消防への通報連絡や寮生の避難誘導などの任務にあたりました。避難終了後は訓練に立ち会った北見消防組合東出張所の署員から講評を頂き、訓練でも迅速な避難を心掛けるようにと、指導をして頂きました。

続けて消火器及び屋内消火栓の取り扱い訓練を実施しました。消火器の取り扱い訓練では本物の消火器の代わりに水消火器を用いた訓練を行い、屋内消火栓の取り扱い

訓練ではホースを持つ人が驚くほどの勢いで水が放出され、取り扱いに苦戦しながらも、何とか腕と足腰で支えている様子でした。

消防訓練終了後、北苑寮内の談話室に移動し、北見消防組合消防本部警防課の方による救命講習を実施しました。1時間程度の講習で、心肺蘇生の方法やAEDの取り扱いについて説明をして頂きました。寮生が何名か代表して模型を用いた実際の救命救急を体験し、署員の方からの指導を受けながら真剣に取り組む様子が見受けられました。



避難完了後、講評に耳を傾ける寮生



左右に掃くように水をかけるのがコツ



勢いよく放水される屋内消火栓



救命措置を2人で協力して行う

テクノトランスファーinかわさき2013へ出展

(社会連携推進センター)

7月10日(水)から12日(金)の3日間、公益財団法人川崎市産業振興財団(以下、川崎財団)、神奈川県、川崎市が主催し、かながわサイエンスパーク(以下、KSP)で開催された「テクノトランスファーinかわさき2013」に初参加しました。

社会連携推進センターでは北見工業大学が進められている様々な研究の広報はもちろんのこと、本学の良さや特徴を広く社会に伝えるための広報活動を行っています。本学は平成22年に、川崎財団が取り組む地域を越えた産学連携推進活動の連携大学として「川崎試作開発促進プロジェクト」に加入しました。以来3年目を迎えた今年はその連携の拡大と強化を目的に、また首都圏での大学広報の一環として、本フェアへも出展することとしたものです。

本フェアには、139の組織・機関からの出展があり、3日間で8000人を超える来場者がありました。産学連携部門には本学も含め大学など21機関が参加しましたが、その大

半は神奈川県近隣の大学であり本学は唯一遠方からの参加でした。会場に設けられたコーナーで開催された「技術シーズ提供セミナー」でも、北見地域の環境を含めた大学の特徴を知っていただくための40分間のプレゼンテーションを行いました。定員20人のセミナーでしたが、満席となるほどご興味を持っていただきました。本学のブースにも予想以上の多くの方に訪れていただき、技術広報、さらには大学広報としても参加価値の高い有意義な場となりました。また、会場となったKSPへの入居企業の中には多数の弊学出身者がお世話になっている企業様もあり、多くのOBがブースを訪れてくださいました。北見出身者、本学卒業生が川崎地域でも大いに活躍していることを実感した展示会ともなりました。

大学間の連携も含めた川崎地域での連携拡大の良い場として、本展示会には継続的に参加していくことを計画しています。



神奈川県知事、川崎市長も出席した開会式



本学が出展した産学連携部門の展示会場



北見工業大学ブース



技術シーズ提供セミナー

北見工業大学技術セミナー（CPDプログラム認定講座）の開催

（研究協力課）

平成25年度北見工業大学技術セミナー（CPDプログラム認定講座）が7月12日（金）に本学総合研究棟多目的講義室で実施されました。

本セミナーは、地域貢献活動の一環として、土木・建設関係技術者に最新の技術動向及び建設コンサルタントを取り巻く状況等についての理解を深めてもらうために2011年から実施しているもので、今年で3回目となる建設コンサルタンツ協会の認定講座です。

セミナーでは、本学環境・エネルギー研究推進センター准教授 八久保 晶弘氏から、社会的にも注目されている新たなエネルギー資源としてのメタンハイドレート研

究の現状について、最新データに基づいた報告があり、引き続いて、本学非常勤講師でもある(株)パル設計事務所専務取締役 橘 邦彦氏や(株)構研エンジニアリング環境保全部長 岩倉 敦雄氏、(株)福田水文センター環境水工部長 林 克恭氏の3人の講師が、「今後の社会資本整備のあり方」をテーマにそれぞれの分野・立場からお話されました。

平日にも関わらず、オホーツク管内から設計、測量、コンサルタント関係の技術者や自治体職員など約50人が参加され、社会資本整備の現状や最近の取組など政府の経済施策情報を交えた講師の説明に熱心に耳を傾けていました。



開会の挨拶



熱心に講義を聴く参加者

第60回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加

(企画広報課)

7月19日(金)、北見夏祭りの風物である舞踊パレードに、昨年に引き続き『北見工業大学チーム』が参加しました。学内に参加募集を行ったところ、学生が94人、教職員が26人と昨年より30人ほど多い120人からなる結成チームとなりました。

当日は、ここ数年にない晴天、適温に恵

まれ、日頃着る機会の少ない浴衣を身につけた参加者は、軽快に「サンバ北見ばやし」に合わせて中心商店街を練り歩きました。

全体の舞踊パレードは、例年より400人ほど多い2900人となり、本学学生の元気なかけ声や活気あふれるパレードは、お祭りを大いに盛り上げていました。



市内をパレードする北見工大チーム



パレード終了後、元気な学生たち！

北海道12国公立大学進学コンソーシアム2013 in旭川に参加

(入 試 課)

7月20日(土)、北海道旭川東高等学校を会場に「北海道12国公立大学進学コンソーシアム2013 in旭川」が開催されました。当日は、各大学がひとつずつ教室を使い、入試制度の説明や個別相談会を行いました。本

学の教室では、機械工学科・鈴木 聡一郎教授による大学紹介・入試制度の説明、二足歩行ロボットのデモンストレーションの他、本学学生による学生生活のプレゼンテーション等を実施しました。



デモンストレーションの様子

北洋銀行ものづくりテクノフェア2013で研究の成果を広報

(社会連携推進センター)

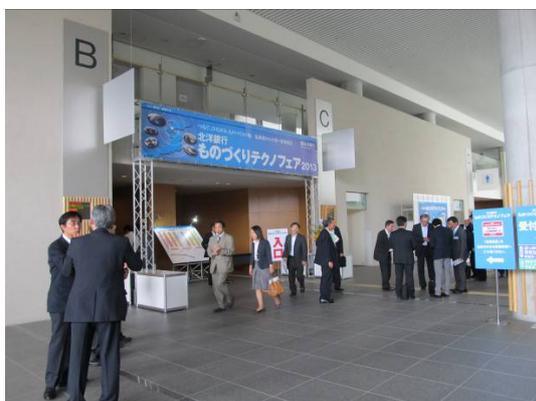
社会連携推進センターは、北見工業大学で進められている様々な研究を通じた社会貢献の拡大をめざし、研究の成果を広く社会に伝えるための技術広報を行っています。その一環として、7月24日(水)に札幌のコンベンションセンターを会場として開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア2013」において、本学の研究者が取り組んでいるユニークな研究の成果を展示・紹介しました。

本テクノフェアは毎年開かれている北海道内のものづくり産業を振興するためのイベントです。今年も経済産業省北海道経済産業局をはじめ多くの公組織・企業団体の後援を得て開催されました。スローガンは「～つなぐ、広がる、ものづくりの輪 北海道から全国へ情報発信～」でした。出展は産業界を中心に過去最多の186件となり、その内大学からの出展は14件でした。また展示技術に興味を持ち参加した来場者は4千人におよびました。

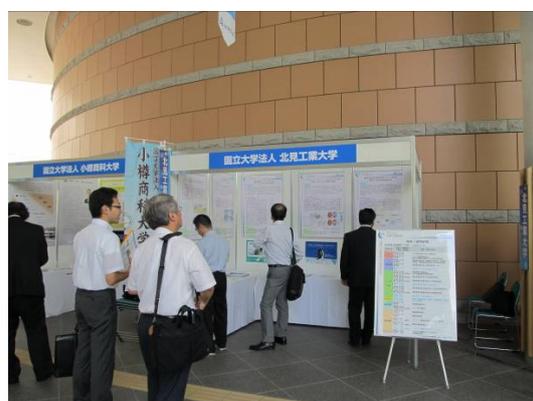
今回本学から紹介した研究は、雪の冷熱を通年活用するための研究「牧草を断熱材

とした雪の冷熱利用」、種々自然・再生エネルギーをローカルに効率的・効果的に成立させるための研究「風力発電を擁するマイクログリッド設計法」、廃棄プラスチックの分解処理を可能にするための研究「疑似酵素システムを利用したポリプロピレンの生分解化」、人の失った運動機能の再生・獲得を支援する技術の研究「ブレイン・マシン・インターフェイス (BMI) を用いたリハビリ支援機器の開発」、骨との接合性に優れた骨代替材料を得るための研究「簡便な処理で骨適合性チタン材料を製造する新表面処理技術」、の5つでした。いずれも寒冷地、エネルギー、環境、医療など、本学が精力的に取り組む領域の独創的な研究です。それらの研究に関心を持つ多くの方々が、本学のブースに足を運んでくださいました。

上記の展示を通じ、本学の特長についても来場者に強くアピールすることができました。本フェアは研究の広報のみならず大学の広報としても、大きな成果を挙げる機会となりました。



多くのお客様が訪れた会場



本学の研究成果を展示したブース

平成25年度北海道地区国立大学法人等総務担当部課長会議を開催

(総務課)

7月26日(金)、平成25年度北海道地区国立大学法人等総務担当部課長会議が本学を当番校として開催されました。

本会議は、北海道内の7つの国立大学、4つの国立工業高等専門学校、2つの国立青少年教育施設の総務担当部課長が出席し、各機関が抱える管理・運営上の諸課題に関わる意見交換・情報交換の場として毎年開催されているものです。

当日は、会議に先立ち小椋史朗事務局長の挨拶の後、再雇用職員の現状と課題につ

いて率直な協議が行われたほか、職員の選考採用、臨時特例法による給与減額措置の対応状況、大学等の後援組織について活発な情報交換が行われました。

その後、文部科学省大臣官房人事課の戸松幹孝調査官から「国立大学法人等の幹部職員としての心構え」と題し、これからの国立大学に求められる幹部職員像について講演があり、会議は盛会のうちに終了しました。



会議の様子



講演する戸松調査官

オープンキャンパスを開催

(入 試 課)

7月27日(土)、高校生や保護者等を対象に本学の教育研究内容や学修支援環境を紹介することを目的として、オープンキャンパスを開催し、359人が参加しました。

当日は田牧純一副学長の挨拶・大学概要

の説明、3系列の紹介の後、参加者たちは各学科において体験学習等に参加しました。

昼食は在学生に人気のメニューが生協食堂で参加者全員にふるまわれ、午後からも体験学習や個別相談会等が行われました。



田牧副学長による大学概要の説明



系列説明



体験学習



自由見学



学食体験



個別相談会

地域市町村の活動に本学学生が積極的に参加・貢献

(社会連携推進センター)

「教育」・「研究」活動と並ぶ大学のミッションの一つとして「社会貢献」活動が定着しつつあり、本学では学生による地域社会への貢献も盛んになってきています。大学の社会貢献の一翼を担う学生達の活躍振りを、6月、7月に行われたいくつかの活動を例に紹介します。

北見市市民環境部リサイクル実行委員会が主催者となり、6月22日(土)に、2013環境フェア「くるるん・きたみ」と「ソーラー&新エネルギーエキシビション2013」が開

催されました。北見工業大学はそれらイベントに参加した「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会」の主要な構成メンバーとなっており、その活動に4人の学生が参画しました。学生は、子供達への「瞬間アイスクリーム」作りの実演、来場者に対するゴミ分別収集のお願いなどを担当しました。液体窒素を使った「瞬間アイスクリーム」作りの実演は、楽しみながら理科の勉強をしてもらう企画で、会場を訪れた子供たちの人気の的となりました。



液体窒素による瞬間アイスクリーム作り



会場でのゴミの分別収集

置戸町の夏を彩る全国的にも有名なイベント、「おけと人間ばんば大会」が6月30日(日)に開催されました。それに先立ち置戸町から大会のボランティア実行委員として大学からも協力して欲しい旨の依頼があり、本学マネジメント工学コースの3、4年生の計6人が大会運営に協力しました。マネジメント工学プロジェクトで学生の地域貢献について卒業研究している4年生にとっては、データ取得の場にもなっていま

す。学生達は、会場に設けられた子ども向けイベントコーナーや「人間ばんば」レースの運営スタッフとして活動しました。残念ながら入賞には至りませんでしたが、「人間ばんば」レースには本学の屈強な学生で構成されたチーム「タケシ」も出場しており、ボランティアスタッフ、大会出場メンバーの両面から学生が置戸町のお祭りを盛り上げていました。



「人間ばんば」レースの運営



子ども向けイベントコーナーの運営



本学学生で構成されたチーム「タケシ」



その他にも、7月20日(土)に北見芸術文化ホール前で開催されたビールパーティ「市民の夕べ」にはKITECOの3人が環境整備ボランティアとして協力し、また7月21日(日)に「北見ぼんちまつり」と同時開催

された「第17回香りゃんせフェスティバル」のソーラーカー工作教室では、学生達が子供たちに理科の勉強を兼ねた模型ソーラーカー作りを指導しました。



香りゃんせ公園での模型ソーラーカー工作教室

このような地域イベントへの学生の参加は、イベントを企画する組織・機関、運営を担う実行チーム、イベントに集まるお客様など、全ての関係者を活気付けるものとして大変に好評です。地域の活動の企画においても若い柔軟な頭脳による貢献が求め

られるなど地域からは活動の継続と拡大が強く望まれており、学生達が地域社会に貢献する活動は多様化・活発化してきています。これからも地域活性化の起爆剤として、近隣の様々な活動に対する多くの学生の参加・活躍が期待されています。

＝ 情報公開 ＝

国立大学法人北見工業大学の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成24年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

（ 毎年6月及び12月に支給する期末特別手当において、役員としての業績に応じ、増額又は減額することができるものとしている。 ）

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長	国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律(平成24年法律第2号)を踏まえ、平成24年4月から俸給月額を約0.5%引き下げるとともに、平成24年7月から国と同等の削減率(9.77%)による給与減額支給措置を実施した。
理事	
理事(非常勤)	国家公務員の給与の改正及び臨時特例に関する法律(平成24年法律第2号)を踏まえ、平成24年7月から国と同等の削減率(9.77%)による給与減額支給措置を実施した。
監事	
監事(非常勤)	理事(非常勤)の改定内容と同じ

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成24年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与) 千円	賞与 千円	その他(内容) 千円	就任	退任	
法人の長	15,067	10,942	3,992	131 (寒冷地手当)			
A理事	12,755	9,274	3,384	24 (通勤手当) 72 (寒冷地手当)			
B理事	12,790	9,274	3,384	131 (寒冷地手当)			
C理事 (非常勤)	2,224	2,224	0	0			*
A監事	該当者なし		0	0			
B監事 (非常勤)	2,224	2,224	0	0			
C監事 (非常勤)	2,224	2,224	0	0			※

注1:総額、各内訳について千円未満切り捨てのため、総額と各内訳の合計額は必ずしも一致しない。
 注2:前職欄の「*」は退職公務員、「※」は独立行政法人等の退職者であることをそれぞれ示す。

3 役員の退職手当の支給状況(平成24年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘 要	前職
法人の長	千円	年 月			該当者なし	
理事	千円	年 月			該当者なし	
監事	千円	年 月			該当者なし	

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

人材の効率的な配置と業務全般の効率化・合理化を図り、適正な人件費の管理に努める。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

社会一般の情勢に適合した適正な給与水準となるよう、一般職の職員の給与に関する法律の適用を受ける国家公務員の給与水準や職員の業務実績を十分考慮して決定する。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

本学が独自に定めた職員評価の結果を基に、職員の勤務成績に応じて、昇給・昇格・降格及び賞与における支給割合の増減を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
賞与:勤勉手当 (査定分)	6月1日及び12月1日(以下「基準日」という。)にそれぞれ在職する職員に対し、基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の勤務成績等に応じてそれぞれ支給割合を決定する。
昇給	原則として、毎年1月1日から12月31日までの期間、良好な成績で勤務した者には4号俸上位の号俸に、特に良好な成績で勤務した者にはさらに上位の号俸に、それぞれ昇給させることができる。 昇給は毎年1月1日付けで実施する。 (国家公務員の給与制度に準拠)
昇格・降格	昇格:特に勤務成績が優秀で、かつ本学が定める必要経年数を有している者は上位の職務の級に決定することができる。(国家公務員の給与制度に準拠) 降格:勤務成績が不良な場合は、下位の級に決定することができる。 (国家公務員の給与制度に準拠)

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成24年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	226	47.8	6,895	5,052	22	1,843
事務・技術	93	43.5	5,251	3,909	27	1,342
教育職種 (大学教員)	132	50.9	8,066	5,865	18	2,201
医療職種 (病院医師)	該当者なし					
医療職種 (病院看護師)	該当者なし					
その他医療職種 (看護師)	1					

在外職員	該当者なし					
------	-------	--	--	--	--	--

任期付職員	該当者なし					
事務・技術						
教育職種 (大学教員)						
医療職種 (病院医師)						
医療職種 (病院看護師)						

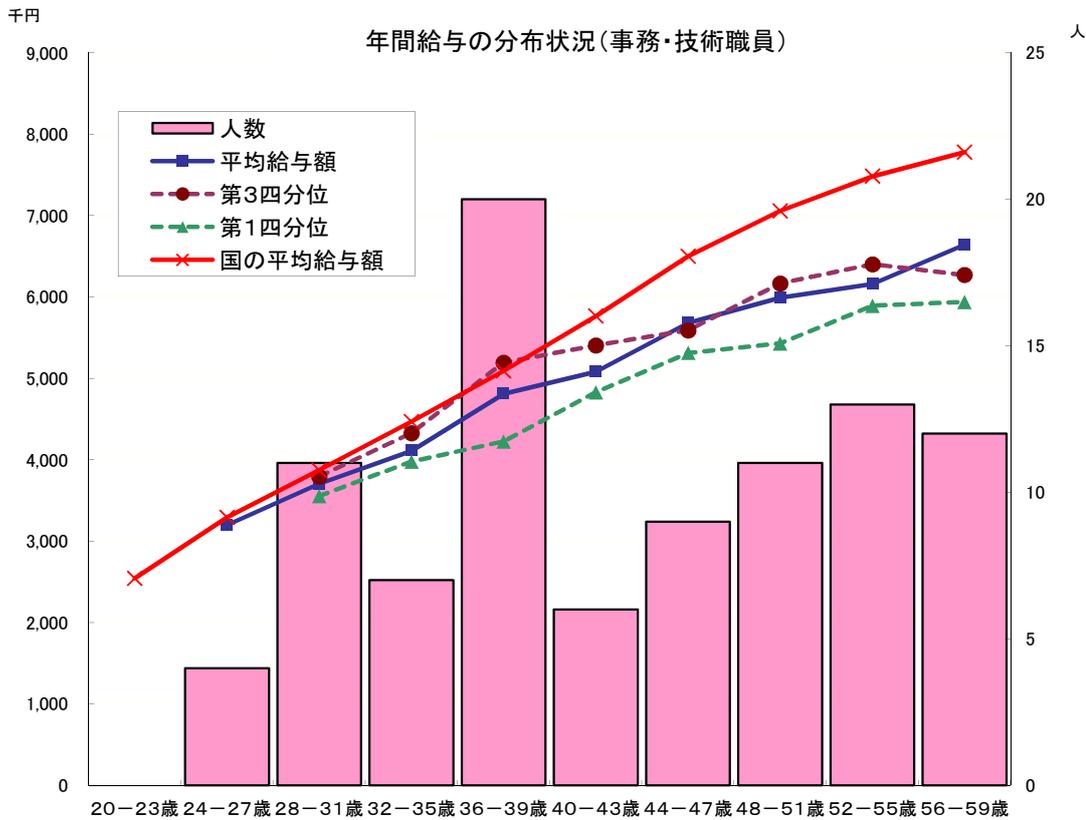
再任用職員	該当者なし					
事務・技術						
教育職種 (大学教員)						
医療職種 (病院医師)						
医療職種 (病院看護師)						

非常勤職員	1					
事務・技術						
教育職種 (大学教員)	1					
医療職種 (病院医師)						
医療職種 (病院看護師)						

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2:常勤職員のその他医療職種(看護師)及び非常勤職員については、該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

②年間給与の分布状況(事務・技術職員／大学教員)
 [在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]

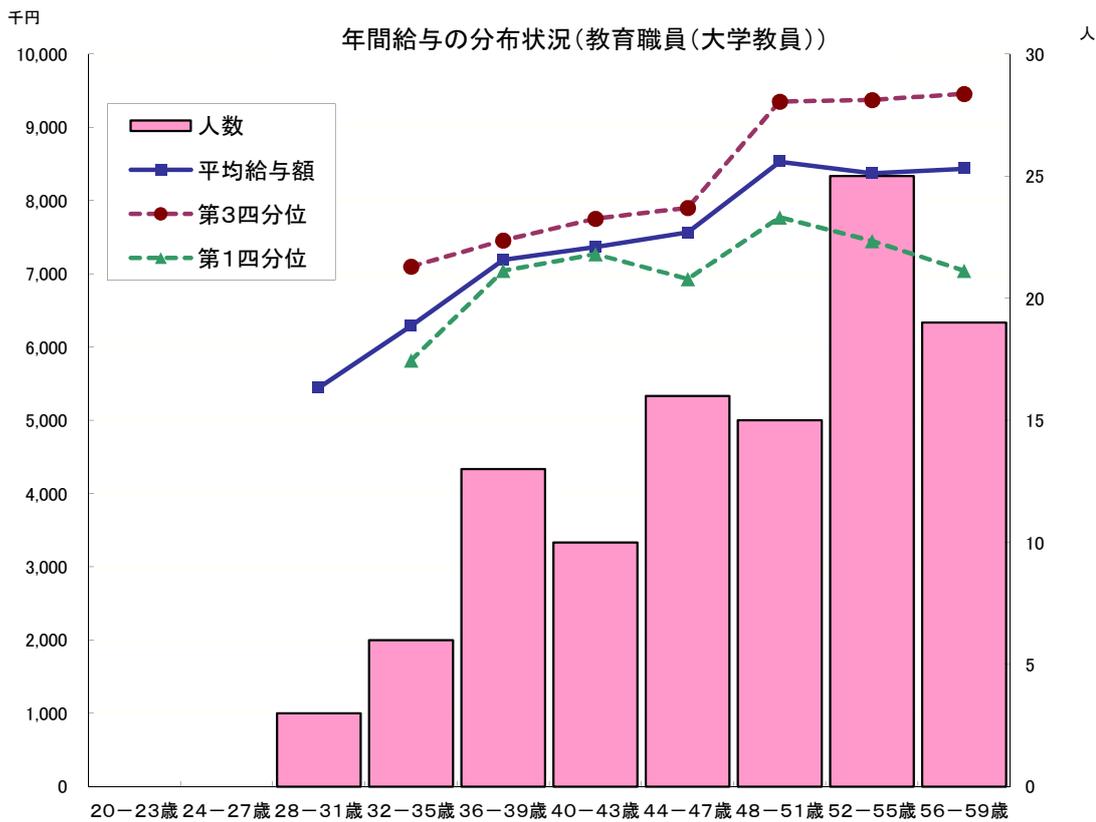


注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。
 注2: 年齢層24～27歳の該当者は4人であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
局長	1		—		—
課長	6	53.0	7,259	7,334	7,656
副課長	12	55.4	6,141	6,274	6,383
係長	56	44.1	4,810	5,176	5,556
主任	2		—		—
係員	16	29.6	3,295	3,609	3,763

注: 局長の該当者は1人、主任の該当者は2人であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢及び年間給与の平均額は表示していない。



注:年齢28～31歳の該当者は3人であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3四分位については表示していない。

(大学教員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	平均	四分位
			第1分位		第3分位
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
教授	50	55.8	8,865	9,490	9,972
准教授	59	47.6	7,226	7,548	7,900
講師	5	50.5	6,774	7,001	7,184
助教	18	48.2	5,670	5,974	6,231

③ 職級別在職状況等(平成25年4月1日現在)(事務・技術職員／大学教員)
(事務・技術職員)

区分	計	1級	2級	3級	4級	5級
標準的な職位		係員	主任係員	係長主任	課長補佐係長	課長課長補佐
人員(割合)	93人	6人 (6.5%)	16人 (17.2%)	48人 (51.6%)	10人 (10.8%)	10人 (10.8%)
年齢(最高～最低)		28～25歳	38～29歳	57～34歳	58～51歳	59～49歳
所定内給与年額(最高～最低)		2,712～2,319千円	3,374～2,730千円	4,410～3,016千円	4,753～4,278千円	5,797～4,463千円
年間給与額(最高～最低)		3,518～3,093千円	4,333～3,554千円	5,941～4,086千円	6,487～5,938千円	7,656～6,141千円

区分	6級	7級	8級	9級	10級
標準的な職位	課長	課長	局長	局長	局長
人員(割合)	2人 (2.2%)	該当者なし (%)	1人 (1.1%)	該当者なし (%)	該当者なし (%)
年齢(最高～最低)					
所定内給与年額(最高～最低)					
年間給与額(最高～最低)					

注:6級における該当者が2人,8級における該当者が1人のため,当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから,「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(大学教員)

区分	計	1級	2級	3級	4級	5級
標準的な職位		教務職員	助教	講師	准教授	教授
人員(割合)	132人	該当者なし (%)	18人 (13.6%)	6人 (4.5%)	58人 (43.9%)	50人 (37.9%)
年齢(最高～最低)			62～31歳	62～29歳	64～32歳	64～42歳
所定内給与年額(最高～最低)			5,154～3,878千円	5,503～4,149千円	6,431～4,399千円	8,669～5,532千円
年間給与額(最高～最低)			6,802～5,296千円	7,278～5,627千円	8,668～6,065千円	12,113～7,678千円

④ 賞与(平成24年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／大学教員)
(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	52.3 %	56.4 %	54.4 %
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	47.7 %	43.6 %	45.6 %
	最高～最低	52.4 ~ 44.7 %	48.9 ~ 41.5 %	50.6 ~ 43.2 %
一般 職員	一律支給分(期末相当)	53.1 %	56.6 %	54.9 %
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	46.9 %	43.4 %	45.1 %
	最高～最低	52.9 ~ 43.7 %	49.5 ~ 40.4 %	51.1 ~ 42.1 %

(大学教員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	48.7 %	52.1 %	50.5 %
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	51.3 %	47.9 %	49.5 %
	最高～最低	54.9 ~ 28.5 %	51.5 ~ 25.8 %	53.2 ~ 27.1 %
一般 職員	一律支給分(期末相当)	52.7 %	56.1 %	54.4 %
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	47.3 %	43.9 %	45.6 %
	最高～最低	54.5 ~ 18.5 %	51.1 ~ 16.5 %	52.7 ~ 17.4 %

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／大学教員)
(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))	88.3
対他の国立大学法人等	97.4

(大学教員)

対他の国立大学法人等	96.1
------------	------

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等の一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容
指数の状況	対国家公務員 88.3
	参考 地域勘案 96.1
	学歴勘案 89.4
	地域・学歴勘案 96.5
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	【主務大臣の検証結果】 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 65.7% (国からの財政支出額2,691百万円、支出予算の総額4,098百万円：平成24年度予算) 【検証結果】 本学は支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合が5割を超えているが、そのほとんどは運営費交付金である。 給与制度は国家公務員の給与制度に準拠して決定しており、対国家公務員指数も100未滿であることから、給与水準は適正であると考えている。
講ずる措置	今後も引き続き、適正な給与水準を維持するよう努める。

○教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 97.1

(注) 上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年収比率を基礎に、平成24年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年収比率を比較して算出した指数である。

〔なお、平成19年度までは教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標である。〕

III 総人件費について

区 分	当年度 (平成24年度) 千円	前年度 (平成23年度) 千円	比較増△減 千円 (%)	中期目標期間開始時(平成22年度)からの増△減 千円 (%)
給与、報酬等支給総額 (A)	1,797,109	1,892,061	△ 94,952 (△ 5.0)	△ 139,244 (△ 7.2)
退職手当支給額 (B)	167,886	246,350	△ 78,464 (△ 31.9)	△ 25,917 (△ 13.4)
非常勤役職員等給与 (C)	116,826	109,525	7,301 (6.7)	736 (0.6)
福利厚生費 (D)	247,108	250,585	△ 3,477 (△ 1.4)	1,217 (0.5)
最広義人件費 (A+B+C+D)	2,328,929	2,498,521	△ 169,592 (△ 6.8)	△ 163,208 (△ 6.5)

※「非常勤役職員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「18 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

総人件費について参考となる事項

(1) 最広義人件費について

○前年度に比べて6.8%の減少となった。主な要因については、以下に記載のとおり。

A. 給与、報酬等支給総額: 前年度に比べ5.0%減少

※定年退職者について若年者による補充を行うとともに、教員の未補充者がいることによる。

※特例法に基づく人事院勧告に係る俸給月額引き下げ(平均▲0.23%)を実施。

※特例法に基づく国家公務員の給与見直しに係る給与減額支給措置を実施。

給与減額支給措置による削減額: 76,922千円

(内訳)

役員: 2,914千円

大学教員: 50,166千円

大学教員以外: 23,842千円

B. 退職手当支給額: 前年度に比べ31.9%減少

※前年度に比べて退職手当支給者が5人減少。

※「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき措置した支給水準の引下げにより、8,425千円の削減。

IV 法人が必要と認める事項

「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき、本学役職員の退職手当について、平成25年1月から国と同様の措置を講ずることとした。

※措置の概要: 退職手当支給額算出上の「調整率」の段階的な引き下げ

(104/100→98/100→92/100→87/100)

= 日誌 =

6 月

- 3日 発明審査委員会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4日 研究推進機構統括会議、入学者選抜委員会、編入学試験（学力試験入試）出願受付（～10日）
- 5日 教授会、研究科委員会、編入学試験（推薦入試）合格発表
- 10日 大学院博士前期課程入学試験（推薦入試併願）出願受付（～14日）
- 11日 CAD/CAM体験ワークショップ、研究推進機構統括会議
- 12日 教育研究評議会
- 13日 経営協議会、学長選考会議、役員会
開学記念日
- 15日 東北地方進学相談会（八戸）
- 16日 東北地方進学相談会（盛岡）
- 17日 大学院入学試験出願受付（～27日）
- 22日 父母懇談会（北見）、大学祭（～23日）、研究室公開（～23日）、図書館ブックリユース（～23日）
- 23日 KITげんき会役員会・総会
- 26日 編入学試験（学力試験入試）、社会連携推進センター運営会議

7 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3日 国際交流委員会、大学院博士前期課程入学試験（推薦入試）面接試験
- 4日 学生選書ツアー
- 7日 北苑寮消防訓練
- 9日 入学者選抜委員会
- 10日 教授会、研究科委員会、編入学試験（学力試験入試）合格発表、大学院博士前期課程入学試験（推薦入試）選考結果通知
- 11日 学術情報委員会
- 25日 オホーツク地域エネルギー環境教育研究会
- 26日 平成25年度北海道地区国立大学法人等総務担当部課長会議
- 27日 オープンキャンパス
- 29日 社会連携推進センター運営会議
- 31日 教育研究評議会、前期定期試験（～8月7日）